

第 11 回日本舞台医学会学術集会が 2025 年 3 月 8 日(土)奈良春日野国際フォーラム I・RA・KA において小川宗宏会長のもと開催されました。

2014 年に生まれた日本舞台医学研究会は、舞台医学の更なる発展を目指し、2023 年に一般社団法人日本舞台医学会となりました。昨年、第 10 回の学会設立記念大会が寺本篤史先生(札幌医科大学)のもと開催されました。舞台医学の発展は、舞台芸術家のパフォーマンスと健康を支え、舞台芸術のみならず文化の発展にも寄与できるものと期待されていますが、未だその認知度は低く、今後の舞台医学の発展には、これからを担う若手の力が不可欠です。義務教育でダンスが必修となり、オリンピックでもダンスは採用されました。この波に乗り、これからの繋げていくことを本会は、学術集会として 2 回目であり、「舞台医学の未来を拓く」というテーマのもと盛大に開かれました。

プログラムでは特別講演 1 で向野雅彦先生(北海道大学)に「弦楽器演奏のバイオメカニクスと運動障害」、特別講演 2 で武藤芳照先生(東京健康リハビリテーション総合研究所)に「舞台医学の理念と実践」のご講演をいただきました。特別企画として、元宝塚トップスターの女優安蘭けい様との特別対談にて、舞台俳優の置かれている環境や医療サポートについて語っていただきました。シンポジウム 1 では「舞台医学のよりよい医療支援体制の構築を目指して」をテーマに、舞台医学の医療支援の第一線で活躍される先生方が議論されました。シンポジウム 2 では「舞台医学の未来を拓く～舞台医学を志す君たちへ」として、多方面から舞台芸術を支えられている先生方にご講演いただいた後、これから舞台医学を目指す学生や若手医師・療法士、安蘭けい様からのご質問に回答、アドバイスをいただきました。アフタヌーンセミナーでは羽田晋之介先生(順天堂大学)より PRP 療法を中心にその舞台医学への活用法までお話いただきました。主題発表では全国各地の先生よりご発表いただき、予定時間を超過するセッションが多い、大変充実した会となりました。学生含め総勢 130 名を超す参加者で賑わい、「舞台医学の未来」が明るく感じられる学術集会でした。全員懇親会では、社交ダンスやギターの弾き語りを目の前で堪能し、舞台芸術の素晴らしさを再認識し、舞台医学のさらなる発展が期待されました。

閉会式では次期第 12 回日本舞台医学会学術集会会長、東京大学の立岩俊之先生に引き継がれ、閉会となりました。来年の第 12 回学術集会の成功を心より祈念しております。



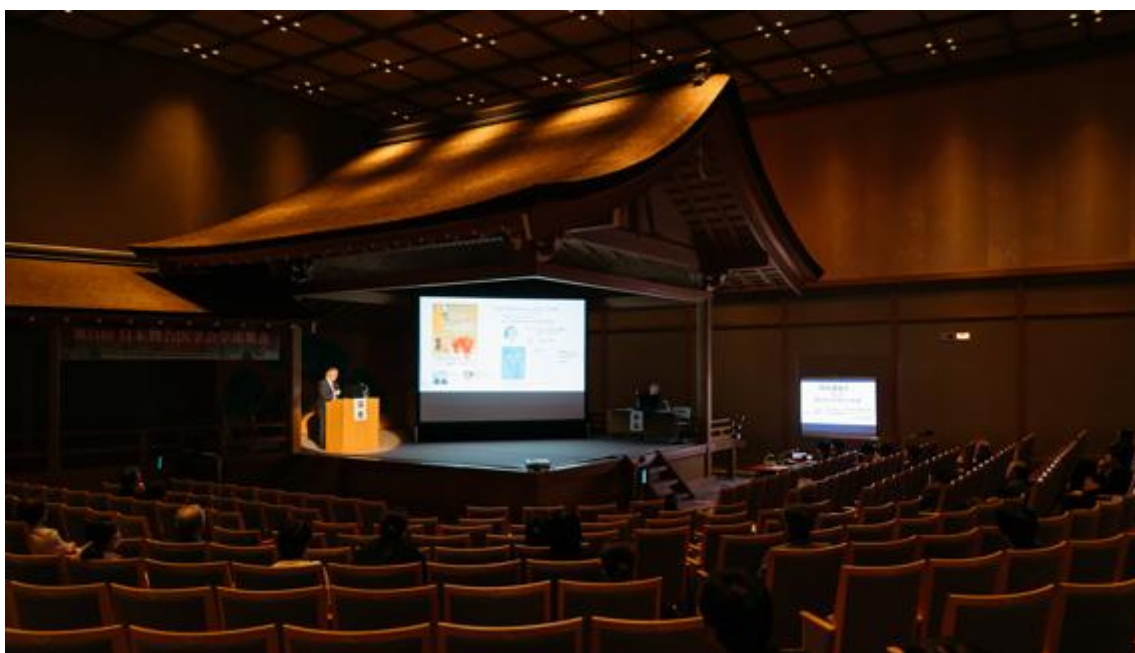
会場正面



開会の挨拶



シンポジウム 2



特別講演 2



次期会長へ



全員懇親会での一枚